いつもそばにクルマが。

年末恒例となった、太田哲也が選ぶ今年のクルマ関連10大ニュース。なにかと暗い話題が多かった年と言われているが、果たして太田はどんなニュースが気になったのか？それではこの1年間を振り返ってみることにしよう。

■文：太田哲也

❶「東日本大震災」自動車業界も大打撃

クルマ十大ニュースといっても今年は東日本大震災があまりにも大きな出来事過ぎて、8割くらいの要素を占めてしまう感じだ。自動車メーカーの関連工場も東北地方に多くあり、その一部も被災した。メーカーの元気が落ちると、自動車業界全体も元気がなくなってくる。

まあでも、前を向いてやっていくしかない。

先日、岩手県大船渡を再訪した。瓦礫の山だった場所が、ガラーンと何にもなくなってまるで埋立地のようになってしまっていた。建物が建つ様子はない。そこにぽつんと一本の旗が立っていた。中古車が数台置いてあり、販売されていた。

その光景を見て「今こんな時期に商魂たくましい」と眉をひそめる人もいるだろう。感情としては僕も場違いに感じたけど、でもこうしたことが復興の第一歩なのだろうとも思った。

おそらく終戦後の焼け野原から復興が始まった時もこんな感じだったのではないか。その一本の旗が、復興に果たす「クルマ」の重要性を象徴しているように僕には思えた。

❷「経済問題」円高・ユーロ危機が直撃

現役時代、ヨーロッパのドライバーはみんな世界情勢を気にしていた。翌年のスポンサーやチームにアプローチする際、各国の動向が重要だからだ。

現在、円高やユーロ危機などの経済問題が自動車業界を直撃している。TPPも絡むけど、円高がこれ以上進むと、工場の海外流出に加速がつき、日本人の雇用も失われていく。円高については政府介入があったが、ギリシャを含めたヨーロッパやアメリカの状況がああでは、円高も止まりそうにない。12年あたり、さらに大きな経済変動があるかもしれない。今後の世界情勢から目が離せない。

❸「EVが今年も躍進」EV躍進に一言もの申す

11年の日本カー・オブ・ザ・イヤーは日産のEV「リーフ」を選んだ。11月号でも書いたが、僕はこれが世の中に勘違いを引き起こすことにならないかと心配している。というのもEVは「普通のクルマ」と同列に扱うべきではないからだ。

航続距離は公表数値と比べて極端に短いし、現在は充電できる場所も限られ時間もかかり、ほぼ遠出はできない。それを知らずに燃料代が安いからと考えて気楽に購入したら、とんでもないことになる。あくまでも実態をわかった人が、限定した使い方をすべきであろう。

❹「プリウスα激売れ」プリウスブランドの確立か

納車一年待ち、なぜプリウスαがそんなに売れる？ 他にもハイブリッドカーはいろいろあるが、これ程は売れていない。

プリウスαに関しては、プリウスという名前を付けるのが正しいのかと疑問を持つほど、プリウスとは別物、ミニバンだ。今までプリウスはハイブリッド＝先進性を前面に出すあまり一般車との違いを強調する（されてしまう）ような作りだったが、αに関しては、ユーザーがハイブリッドが何かを知らなくても違和感なく運転できるようになった。それは良かったと思う。

それにしても、もしプリウスという名が付いてなければこれほど売れたであろうか。プリウスαが売れたのはプリウスがすでに車名に止まらず、「ブランド」に昇華したからではないか。

トヨタのブランドといえばレクサスだが、あるときはハイブリッド、あるときはスポーツ、そして静かなラグジュアリーと、作り手の最終イメージが確立できていない印象だ。それに対して、プリウスは一貫性がある。流行り言葉でいうとブレない。それがブランド構築には大切だ。今後、トヨタのハイブリッドカーはすべてプリウスに集約して、（スポーツカーを含む）様々な形態のプリウスを登場させたらどうか。暴論か（？）。

❺「エンジンの多様化」スカイアクティブに期待

ヨーロッパ車はあいかわらず元気で、エンジンに関してもフィアットのツインエアやVWの小排気量ターボなど、走りと環境を融合した魅力的なエンジンがどんどん登場する。

一方、日本車はEVとかハイブリッドなどが先行し、一見進

Profile●太田哲也 ル・マン、全日本GT選手権などで活躍し、“日本一のフェラーリ遣い”の異名を持つ。多重事故から社会復帰までを綴った『クラッシュ』『リバース』は映画化となりベストセラー。現在は、自動車評論家として、また“モータース

東日本大震災復興のために、クルマで日本を元気にしよう

▲今年一番のニュースとなった東日本大震災からの復興のために、「クルマが日本を元気にする！」が太田の今年から来年にかけてのテーマ。写真は太田が率いる「TEZZO RACERS CLUB」のメンバーとスポーツランドSUGOにて

んでいるように見えるが、通常エンジンは古くなってきた。

EVやハイブリッドの世界シェアは現在数%に過ぎない。バッテリーの供給不足、破棄に関するリサイクルなどのネガもある。まだまだ将来にわたって化石燃料が主体だ。日本人は新し物好きの傾向があるが、地道なガソリンやディーゼルエンジンの性能向上も必要だ。

そうした中でマツダが登場させた「スカイアクティブG」は期待できる。通常のガソリンエンジンだが圧縮比を上げて飛躍的に走りと環境性を高めた。ロータリーを搭載した最後のモデル・RX-8の生産中止が発表されたが、かつてロータリーをモノにしてきたマツダの情熱がスカイアクティブに投じられれば、将来、マツダの「顔」となることだろう。

❻「韓国大ブーム」韓国車を今売れば…

今年はKARAや少女時代などのKポップが大ブレイクした。以前、ヒュンダイが韓国ドラマ「冬のソナタ」で主演したペ・ヨンジュンをイメージキャラクターに起用し、そのまんま「ソナタ」というクルマを出したことがある。しかし日本での販売は伸びなかった。彼のファン層は一部の中高年女性で、自動車購入層ではなかったのだろう。その後、ヒュンダイは日本市場から撤退した。

現在、韓国はアメリカとFTAを結び、5年後は対米輸出関税がゼロになる。すでに発売されているGMブランドのシボレー・キャプティバの中身はほぼ韓国製。品質も上がってきている。Kポップでイメージも上がった今、韓国車が入ってきたら売れるのではないか。

もしかしたらKポップブームは、自動車や電化製品の輸出を見据えた韓国政府の国家戦略、と捉えたら考えすぎかナ。

❼「OTAアワード」BMW1シリーズが大賞

さて恒例のひとりカー・オブ・ザ・イヤー「OTAアワード」だが、ノミネートされたのは、トヨタFJクルーザー、BMW1シリーズ、フィアット500ツインエア、そしてプリウスαである。どれも作り手が何をしたいかがはっきりと見え、個性が光る。モノづくりとは、何かをプラスして個性が生まれるのではなく、そぎ落として残るモノに個性が宿るのだ。

それぞれのクルマは独自の個性を放ち悩むのだが、日本車への影響力も期待し、11年のOTAアワードには、BMW1シリーズを選ぶことにしよう。

BMWの中で最もコンパクトなモデルで、ヨーロッパではVWゴルフやプジョー308などのCセグメントと呼ばれるファミリー層中心のカテゴリーに属するが、プレミアムクラスのアウディA3やメルセデス・ベンツA&Bなどが直接のライバルだろう。その中でBMWが異色なのはクラス唯一、駆動方式がFR、エンジンが縦置きであること。他はすべて横置きのFFだ。

FRはFFよりも室内が狭くなりその面では不利となるネガを承知で、あえてFRにこだわる。駆動力に操舵感が影響されない走りの上質感と運動性の向上。新技術と言えば8速ATくらいしか目立ったものはないが、「乗ればわかる、俺の良さは…」と語りかけてくる。

本当は、投入された技術は8速ATだけではないだろうが、あくまでもアピールするのは付加技術ではなく中身なのである。こういうスタンスが個性を磨きブランドを構築していくのではないか。日本車でもこういうクルマの登場を期待する。

❽「太田CDデビュー!?」被災地のことを忘れない

TUBEのボーカリスト前田亘輝さんから誘われて著名人百数名が参加する復興ソング「リスタート」のCDレコーディングに参加した。さらに横浜スタジアムで行われた夏の恒例TUBE・コンサートでは、アンコールの際にステージに呼ばれて、3万人の前で僕の歌と踊りを披露した。初のCD&コンサートデビューだ（苦笑）。

太田哲也エンジョイドライビングレッスンのイベントでは、いつも最後にリスタートを参加者、関係者全員で歌っている。ずっと被災地のことを忘れないでいたい。

❾「マツダ787B試乗」60歳でル・マン挑戦!?

マツダが、日本車最初で最後のル・マン総合優勝20周年を記念して、787Bをレストアした。僕も20年ぶりに運転してみた。ブレーキは石みたいに重かった。よくこんなスーパーマシンでレースをしていたな、と自分の歳を感じた。

ところで2年前のホリデーの記事を見たら、「60歳になったらル・マンにまた挑戦する！」とあった。たぶんノリで書いたのだろうけど、一応、トレーニングとかはじめてみるかナ。

❿「テーマ」クルマで日本を元気に！

僕は基本的に状況が落ちている時こそ、チャンスと捉えて新しい試みを推進すべきだと考える。復興に向けて僕らクルマ関係者や愛好者で何ができるかを考えた時、ふさぎ込んでいないでカラ元気でもいいから、クルマが復興に果たす影響力を信じて、仕事も趣味も一生懸命やっていこうじゃないか！　と呼びかけたい。今年から来年にかけてのテーマは「クルマが日本を元気にする！」だ。ホリデー読者も含めて沢山の人たちに賛同の手を挙げてほしい。

●「太田哲也×ホリデーオート エンジョイ＆セーフティドライビングレッスン」12/18(日)in袖ヶ浦FRWの詳細内容がいろいろと決まりました。教習車両には発売されたばかりのスバルWRX STI A-LineタイプSやスペックCも！　そしてWRX STI開発責任者がいらっしゃるほか、あの新型車による「アイサイト体験」もできます。ホリデーオート編集部によるトークショーもあります！　「スパタイGP(スーパータイム